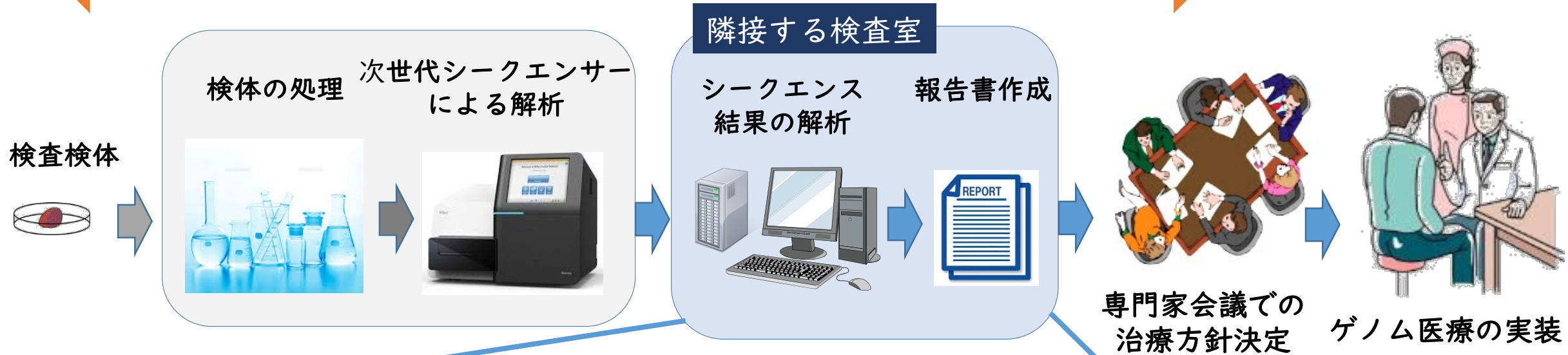


# 網羅的遺伝子診断の流れ

## 網羅的遺伝子診断の品質保証

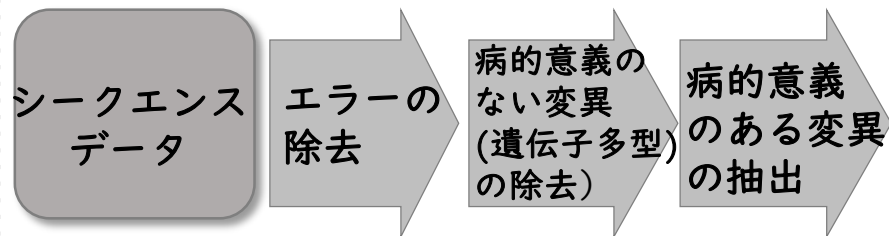
臨床医によるゲノム医療

分子病理専門医の管理



### 結果についての解釈の検討が必須

コンピューターがプログラム実行



専門家が結果を目視

本当に意義のある変異が確認

臨床医・病理医・クリニカルシーケンス部門医・研究者で会議

- ・候補薬剤の検討
- ・生殖細胞変異の場合 取り扱い相談

レポート作成へ

# 網羅的遺伝子診断の流れ

## 網羅的遺伝子診断の品質保証

臨床医によるゲノム医療

分子病理専門医の管理



### 結果についての解釈の検討が必須

専門家が結果を目視

臨床医・病理医・クリニカルシーケンス部門医・研究者で会議

本当に意義のある変異が確認

・候補薬剤の検討  
・生殖細胞変異の場合  
取り扱い相談

レポート作成へ

分子病理専門医

コンピューターがプログラム実行

シーケンスデータ

エラーの除去

病的意義のない変異(遺伝子多型の除去)

病的意義のある変異の抽出

# 分子病理専門医の定義

**分子病理専門医**とは、がん組織など主として病理検体を用いてゲノム診療に関わる、適切な診断方法、体細胞遺伝子変異の検索、NGSなどの遺伝子検査技術を理解し、ゲノム医療のための適切な診断を報告できる医師

# 分子病理専門医の要件

具体的にはエキスパートパネルに参加し，エキスパートパネル等で分子病理学の卓越した知識のもと，遺伝子パネル検査等の結果に関して病理診断に基づき理解，助言等が可能な能力の優れた病理専門医を指す。

# 分子病理専門医認定制度について

## 【目的】

ゲノム医療実現のための分子病理学の重要性にかんがみ、日本病理学会分子病理専門医の認定制度を設ける。この制度は、ゲノム医療において求められる技術や知識を身につけ、エキスパートパネル等で卓越した知識のもと助言等が可能な能力の優れた専門の分子病理医を認定することにより、わが国の医療の一層の充実と発展に寄与し、併せて分子病理学の進歩発達に資することを目的とする。

## 【認定対象者】

日本病理学会認定 病理専門医

# 必要な要件

(病理専門医を基盤にして新たに必要な知識、技術、関連情報)

- ゲノム診療の診断に基礎知識  
(IHC、FISH、遺伝子検査、遺伝子パネル検査などの適切な選択)
- ゲノム診療に関わる診断技術に関する知識  
(IHC、FISH、遺伝子検査、遺伝子パネル検査など)
- 病理診断との関係について
- 標本の管理・情報の管理
- レポーティング
- エキスパートパネルにおける役割の理解・参加，助言等

# 資格取得に必要な教育

- 講習会の受講各1回の受講
    - 1) ゲノム病理標準化講習会(2019/4/20に開催の講習会より有効)
    - 2) 分子病理専門医講習会
  - エキスパートパネルへの参加 (3回)
- 
- 資格試験：日本病理学会において実施・認定
  - 資格維持のための教育：日本病理学会、日本臨床腫瘍学会、人類遺伝学会、日本臨床検査技師会、日本癌治療学会などと協働する（予定）。

# 分子病理専門医認定の道筋

2018. 3, 2019. 4  
分子病理専門医（暫定）  
認定（87名）

2019. 5  
試験要項を公表

2021.4 分子病理専門医認定  
制度開始

2019

2020

2021

2022

試験実施

試験実施

出願

ゲノム病理標準化  
講習会  
(1日)

4/20  
東京

9/7  
東京

10/5  
福岡

2/1  
大阪

2020年度予  
定は未定

6/15  
東京

11/30  
大阪

2/15  
東京

分子病理専門医  
講習会  
(1日)

